

肺末梢病変のより確実な検体採取をサポート ディスポーザブル吸引生検針「PeriViewFLEX」を発売

オリンパス株式会社(社長:笹 宏行)は、気管支鏡を用いて肺末梢部の検体採取する際に使用するディスポーザブル吸引生検針「PeriViewFLEX^{※1}」を2019年2月8日(金)から国内で発売します。

本製品は、「EBUS-GS 法^{※2}」や「EBUS-UT 法^{※3}」という手技で使用する針(処置具)です。これらの手技は、従来の気管支鏡(極細系気管支鏡を除く)が届かない肺の末梢部に存在する病変の検体採取するために行われ、主に生検鉗子などの処置具が使用されています。採取した検体は病理診断を行い、分子標的薬治療^{※4}や免疫療法^{※5}の適用など、今後の治療方針を決定します。

今回発売する「PeriViewFLEX」は、EBUS-GS 法・EBUS-UT 法の両手技に使用できる針です。柔軟性が高いため、病変へのアプローチ性の向上に寄与します。外径を細くしつつ、検体採取に必要な内径を確保したことで、より確実な手技の実施をサポートします。

※1 本製品の愛称。販売名は以下「発売の概要(国内)」を参照

※2 ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法。気管支鏡を用いて末梢部にガイドシースを留置し、ガイドシースに超音波プローブや処置具を挿入することで、病変の位置を特定したり組織採取を繰り返し行ったりすることが可能になる末梢生検の手法。

※3 先端部外径 3.0mm の極細径気管支鏡に直接超音波プローブや処置具を挿入することで、病変の位置を特定したり組織採取を繰り返し行ったりすることが可能になる EBUS-GS 法と並ぶ末梢生検法の一つ。

※4 ゲノム・分子レベルでがん細胞の特長を認識し、がん細胞の増殖や転移を行う特定の分子のみに作用する薬を投与する治療法。

※5 体の中に侵入した異物を排除する能力(免疫)を高めることでがん細胞を排除し、がんを治療する方法。免疫が弱かったり、がん細胞が免疫にブレーキをかけたりすると、がん細胞を排除できず増殖していく場合もある。

●発売の概要

販売名	発売予定日
ディスポーザブル吸引生検針 NA-403D (愛称:PeriViewFLEX:ペリビューフレックス)	2019年2月8日(金)

●主な特長

1. 針の外径を細くしたことにより、組み合わせ機器の選択肢拡大に寄与
2. 細径ながら十分な内径を確保したことにより、確実な検体採取をサポート
3. 高い柔軟性により、病変へのアプローチ性向上に寄与



ディスポーザブル吸引生検針「PeriViewFLEX:ペリビューフレックス」

●開発の背景

肺がんは国内がん死亡原因の第1位で、近年増加傾向にあります。CT装置の高性能化などに伴い、肺の末梢部に存在する微小病変が多く発見されるようになり、気管支鏡を用いた検体採取による確定診断の期待が高まっています。

肺末梢部は通常の気管支鏡の挿入が困難であるため、EBUS-GS法やEBUS-UT法により生検鉗子や細胞針ブラシを用いて検体採取を行います。しかし、気管支の壁の外側に病変が存在する場合は、生検鉗子で繰り返し生検を行いながら病変へアプローチする必要があり、高度な技術を要します。

今回発売する「PeriViewFLEX」は、EBUS-GS法・EBUS-UT法の両方に使用可能な細径の針です。気管支壁外の病変に対しても、針を刺すことでアプローチを容易にし、質の良い検体を十分な量採取できることが期待されます。(図参照)

確定診断の精度向上に加え、検査効率性や患者さんへの負担軽減に貢献します。



●主な特長の詳細

1. 針の外径を細くしたことにより、組み合わせ機器の選択肢拡大に寄与

針の外径を細くしたことで、EBUS-GS法で使用するガイドシースやEBUS-UT法で使用する極細径気管支鏡への適用が可能になりました。これまで両手技に使用していた生検鉗子や細胞診ブラシに針が加わることで、より確実な手技の実施に貢献します。

2. 細径ながら十分な内径を確保したことにより、確実な検体採取をサポート

針の外径を細くしつつ、検体採取に必要なとされる内径を確保しました。検体の採取が難しい末梢病変においても、質が良く十分な量の検体採取をサポートします。

3. 高い柔軟性により、あらゆる部位の病変へのアプローチに寄与

針管にスパイラル状のレーザーカットを施したことで、高い柔軟性を確保しました。従来の処置具ではアプローチが難しかった病変に対しても、針が柔らかく曲がりやすくなったことで、容易なアプローチに寄与します。



オリンパスは本年10月12日に創立100周年を迎えます。

これまで当社の発展を支えてくださったお客さまをはじめ、ステークホルダーの皆さまに心より感謝申し上げます。これからも世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現を通して、社会に貢献してまいります。